

会 議 録

- 1 会議名 令和元年度第2回上越市スポーツ推進審議会

- 2 報告事項
 - (1) 令和元年度スポーツ関連事業の実施状況について（中間）
 - (2) 上越市立上越体操場の整備・進捗状況について
 - (3) 新潟県立武道館新築工事の進捗状況について
 - (4) 令和元年度東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業の取組状況について
 - (5) 上越市第2次総合教育プラン「後期実施計画」（案）について

- 3 議題（公開・非公開の別）
 - (1) 令和元年度スポーツ関連事業の実施状況について（中間）（公開）

- 4 開催日時 令和元年10月17日（木）午後2時00分から午後4時00分まで

- 5 開催場所 市民プラザ3階 第2会議室

- 6 傍聴人の数 0人

- 7 非公開の理由 なし

- 8 出席した者 氏名（敬称略）
 - ・委員：土田了輔、高橋正弘、石野秋広、亀山浩、齋藤隆雄、高橋達也、佐藤一徳、春日清美、滝本篤透、川澄陽子、三浦元二、竹原貞勝
 - ・事務局：田中課長、石澤参事、石田副課長、雲田係長、田村主事、佐久間生涯スポーツ指導員、米川室長（オリンピック・パラリンピック推進室）、戸田管理指導主事（学校教育課）

- 9 あいさつ
【土田委員長】

- ・台風による被害が発生した。雪の備えに加え、今後は、風水害に対する備えも必要と感じた。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。当市のスポーツ推進について、ご協力いただきたい。よろしく申し上げます。

10 報告事項

- (1) 令和元年度スポーツ関連事業の実施状況について（中間）田村主事が資料 1 に基づき説明。

【竹原委員】

- ・施策 3 スポーツ環境の整備について、高田スポーツセンターの競技場照明修繕工事とあるが、先日道場を使用した際に電球が切れていた。

【石澤参事】

- ・ここで報告しているのは、2 階アリーナの照明機器であるが、切れていたのは、2 階アリーナの照明であるか。

【竹原委員】

- ・1 階の道場の照明が切れていた。

【石澤参事】

- ・早急に確認し、対応する。

【竹原委員】

- ・了解した。

【滝本委員】

- ・施策 1 生涯スポーツ活動の充実について、中郷区のさとまるスポーツクラブは会員がたくさん入ったようだが、内訳を教えてください。

【田村主事】

- ・区民全員を会員としているため、会員数は区の人口となっている。

【田中課長】

- ・今回のさとまるスポーツクラブ設立の最大のメリットは、総合型地域スポーツクラブになることで、個別の種目団体や文化系の団体が行う教室等に、区民なら誰でも参加できる開かれた状態となったことである。

【三浦委員】

- ・施策 3 スポーツ環境の整備の(3) 体育施設の適正配置の方向性で示されている事項については、施設がある地域と協議して進めることになると思う。市の方向性として、様々な施設の適正配置を進めるにあたり、施設のグレードに基づくことになれば、中心市街地以外の地域の受け皿となる体育施設が、先細りしていくのではないかという危惧

があり、細やかな目を持つ必要がある。資料に記載されている 5 件だけでは、全体の状況がどう進められているのか、わかりにくい。今後、どのように進めていくのか、全体の方向性を教えていただきたい。

【田中課長】

- ・市の公の施設の再配置については、平成 27 年度から 30 年度分までの計画がある。その計画には、体育館、ナイター照明といったカテゴリーごとに基本的な考え方が記載されている。ここに記載している照明設備の廃止は、その基本的な考え方を踏まえたものである。施設の老朽化が進む中で、更新を迎える時期に、それまでの利用状況を踏まえ、検討を進めてきた結果、廃止と判断したものである。この 5 つについては、年間利用者数が 300～400 人と著しく少なかったことから、他のナイター照明施設で供給が足り、対応できると考えている。
- ・ここを利用している団体に、それぞれ廃止について協議させていただき、練習時間を変更することや他の施設に移ることで了承いただき、廃止することとなった。
- ・中郷の庭球コートも年間利用者数が 100 人を切る状態であり、通常は、体育館で練習していると聞いている。今回は、著しく利用が少ないことから、不断の事業見直しの一つとして、先行して廃止に取り組むものである。
- ・また、市全体の施設の再配置に向けた考え方については、令和 2 年度末の新しい再配置計画の策定に向けて、全庁で検討しているところである。現在、行政改革推進課が各区の地域協議会に伺い、全体的な考え方を説明している。その中では、地域的な配置のバランスを考慮することが述べられている。当課では、まだ具体的な案を持ち合わせていないが、市全体の基本的な考え方としては、地域の配置バランスも見据えてということになると思う。但し、全庁的に見れば、あまりにも年間利用者数が少ない場合は、先行して廃止を進めるケースもあると思う。いずれにしても、計画が出来上がるのは、令和 2 年度末であり、その間検討を進めていく。

【三浦委員】

- ・スポーツ施設に限らず、地域における施設の必要性は、利用者数のみでは測れないと思う。施設のグレードを基準に判断した適正配置では、地域におけるスポーツ環境が、ますます疲弊していくのではないかと感じている。その点を踏まえ、適正配置、施設整備や修繕を進めていただきたい。

【田中課長】

- ・特定の施設に限ることなく、真に必要な施設の修繕や適正配置行っていきたいと考えている。

(2) 上越市立上越体操場の整備・進捗状況について、石澤参事が資料 2 に基づき説明。

(3) 新潟県立武道館新築工事の進捗状況について、石澤参事が資料 3 に基づき説明。

【三浦委員】

- ・上越体操場は直営になるのか。

【田中課長】

- ・直営となるが、市の職員が常駐するのではなく、業務の多くを委託する。先般、補正予算をいただいたが、体操施設の特徴からして、体操に精通した組織への委託が適切と考えている。

【三浦委員】

- ・愛称募集のパンフレットを見ると、「生涯のスポーツ活動を通じた市民の健康増進」が三つの柱の一つになっているが、体操場を活用し、どのような形で健康増進に取り組み、どのような形で運営管理されるのか。また、どのような展開で施設を活用していくのか、具体的な計画はこれからになると思うが、方向性をお聞かせいただきたい。

【田中課長】

- ・基本的には、体操の練習がほぼ毎日入ることとなる。土日については日中の利用が主となり、それが競技力の向上に繋がると考えている。
- ・健康増進については、体操の器具を活用することも含め、市民の健康増進に繋がるような取り組みを行っていきたいと考えている。内容としては、各種健康教室やアクロバット教室、小学生の施設利用学習等を考えている。これも、市が直営で教室を運営するが、それぞれの教室運営を、得意な団体に謝礼を払い、実施してもらうことも考えている。具体的なメニューについては、検討中である。

【滝本委員】

- ・素晴らしい施設が出来上がるので、体操の競技力向上ももちろんだが、ソフト面を充実する必要があると考える。上越体操場に関しては、パルクールなどの新しいスポーツやスキーでいうところのエアなど競技について、強化を体操協会が請け負っていくことを視野に入れてはどうか。当市は、雪国であるので、そういった種目も含め、有効的に施設を使っていたきたい。
- ・武道場においては、空手道、柔道など県外に選手が流出していることもある。この施設で高校の部活を充実させるなど、流出の歯止めや県外の選手が来られるようになる施策を、競技団体の皆さんから提案いただきながら、進めていっていただきたい。

【田中課長】

- ・今後の参考とさせていただきたい。

(4) 令和元年度東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業の取組状況について、米川室長が資料4に基づき説明。

【亀山委員】

- ・ホストタウンサポーターの活動内容を具体的に教えてほしい。

【米川室長】

- ・合宿中のドイツ選手のサポートや会場の運営補助、ホストタウンのイベントや聖火リレーなどにご協力いただくことを考えている。
- ・ホストタウンサポーターの皆様からこんな取り組みをやってみたいという提案をいただく中で、ホストタウンの取り組みとして適当となれば、ぜひとも取り組んでいきたいと考えている。

【亀山委員】

- ・登録の対象は、個人であるか。

【米川室長】

- ・個人での登録を原則としている。

【土田委員長】

- ・ドイツのホストタウンサポーターは、ドイツチームに関連するものということで、国内では、上越市だけとなるのか。

【米川室長】

- ・ドイツのホストタウンは全国で15自治体あるが、ホストタウンサポーターは、当市独自の取り組みである。興味のある方が、ホストタウンサポーターに登録し、市からホストタウンとしての取組やオリンピック・パラリンピックに関する情報を得たり、希望する場合は、イベントの運営に参加することができる仕組みである。この取組の募集範囲は、上越市民に限るものではなく、既に、現在ドイツに在住する方からも、申し込みをいただいている。当市独自の取組であるが、似たような取組を行っている自治体もあると思われる。

【土田委員長】

- ・他にも受け入れている自治体がたくさんあるのですね。

(5) 令和元年度上越市第2次総合教育プラン「後期実施計画」(案)について、田村主事が資料5に基づき説明。

【竹原委員】

- ・施策2 競技スポーツの発展について、上越市の有望な選手に対して、施設の利用料金を免除する制度はあるのか。

【田中課長】

- ・選手個人に対する減免制度はない。青少年育成の観点から、団体に対する減免制度と、大会の開催であれば、主催者に対する減免制度を設けている。

【竹原委員】

- ・全国大会に出る選手に、利用料金の減免制度があれば、一生懸命に練習できるのでは

ないかと思う。

【田中課長】

- ・スポーツ振興奨励金制度があり、一定の金額を交付し、選手の奨励と経済的な負担の軽減を行っている。

【三浦委員】

- ・施策 3 スポーツ環境の整備について、私は、還暦野球をしており、先般、報道にもあったが、新野球場の建設について、野球に携わる人を中心に署名活動を行っている。今後、まとめて市へお持ちすることになると思う。報道によれば、教育委員会側に検討を指示しているという記事が出ていた。目標を「ライフステージに応じた市民ニーズを踏まえる」とするならば、少年の頃から野球に親しみ、地元で様々な選手や野球の試合を見ながら上を目指す環境を作ることが必要であると考え。その意味では、当市は県内の各市と比較してやや劣る状況にある。スポーツの振興として、単に施設の整備というだけでなく、整備を通じた底辺の拡大に繋がっていくことが必要だと思う。今日の段階で、状況をお聞かせいただけることがあれば、伺いたい。

【田中課長】

- ・議会でも複数の議員から質問があったが、年度末を目途に整理する方向であり、現在は、その判断をするための情報として、野球場の規模・機能、整備に必要な予算等を調査している段階である。

【石野委員】

- ・施策 1 生涯スポーツ活動の充実の成果指標について、スポーツイベントの参加率について、100%以上となっている。これは、上越市の人口に対する延べ参加者数の割合ということだが、イベントに参加しない人達もいる一方、参加している人たちが複数回参加し、100%を上回るということになると思う。この100%の意味は何か、具体的にお聞かせいただきたい。

【田中課長】

- ・現行の総合教育プランの後期計画ということで、前期の成果指標を継続して、経年の傾向を把握するという考えで、参加率という指標を残すこととした。この参加率は、複数回参加している人をそのままカウントしているので、スポーツをしている市民の人数が増えているかを図る指標ではない。今回は、スポーツイベントに参加している方の延べ人数を、後期も継続して測定し、前期と比較したいと考えたものである。100%にしたのは、昨年度の実績が100%を超えたためである。

【石野委員】

- ・了解した。そういうことならば、令和3年度は110%になることもありえると思う。

【春日委員】

- ・来年度の施設利用申し込みにあたって、上越体操場や県立武道館が利用可能になる事から、厳しい予約状況が、少しでも緩和されるものと思う。

- ・申し込みの段階で、利用可能であることが周知されるという考え方でよいか。

【田中課長】

- ・県立武道館の利用については県になるが、本日お配りした、武道館利用規則の9ページに申し込み方法が示されている。利用日の三ヶ月前から申し込みを受けようである。詳細はそちらをご確認いただきたい。
- ・上越体操場については、11月から予約受付を開始する予定である。当然、他の施設利用との調整もあるので、同時期に情報を発信する予定である。

【竹原委員】

- ・県立武道館について、利用希望が重複した場合は、全国大会などから優先順位をつけ、決定すると聞いている。

1 2 議題

- (1) 令和2年度予算の考え方について、田村主事が資料6に基づき説明。

【滝本委員】

- ・施策1生涯スポーツ活動の充実に「地域スポーツ活動の充実」とあるが、課題認識として、クラブが無いところのサポートをしていくという考え方と、既に活動している各区のスポーツ活動への直接的な関与も必要ではないかと思う。上越市全体として考えると、各地域でスポーツができる環境を整えていくことも必要だと思うので、できれば入れていただきたい。
- ・実際、クラブが無いところは、市の予算を当てにせず、スポーツ活動を行っている団体の方がいることを踏まえ、今後の展開の視点とし、ソフト面の予算配置も考えてほしい。

【田中課長】

- ・いただいたご意見も参考にさせていただき、令和2年度の予算要求に臨みたいと思う。

【竹原委員】

- ・今年度予算は、どんな事業にどのくらいの予算がついているのか。

【田中課長】

- ・今年度は、報告事項で説明した資料1の事業に取り組んでいる。令和2年度も予算計上し、継続する予定である。ただし、必要がないとなれば廃止となる場合もある。また、逆に必要であるとなれば、新たに予算計上し、事業を実施したい。

【三浦委員】

- ・施策1生涯スポーツ活動の充実について、多様なスポーツの機会の提供とあり、先ほど伺った、上越体操場の活用について記述されているのだと思う。ここで記述されている、『スポーツが持つ「健康増進」の効果』について伺いたい。私は、運動普及推進協議会の代表としてこの場に出席している。同じ運動普及推進委員の中にスポーツ推

進委員を兼ねている方もいる。現在、市全体の事務事業評価の中で、運動普及推進委員の取り組みとスポーツ推進委員の取り組みを再度見直していくべきではないかという議論が進んでいると思う。その評価結果は、運動普及推進委員は見直しを行い、スポーツ推進委員は拡充するという事となっている。資料6を見ると『スポーツが持つ「健康増進」や「体力維持」などの効果』ということで、切り口は「スポーツ」としている。運動普及推進委員になると、この「スポーツ」という言葉が「運動」に変わる。スポーツと運動という言葉の整理が必要だと思う。スポーツ推進課からすれば、「スポーツ」が切り口になると思うが、スポーツに関われない方は、いわゆる運動の中からも健康増進に向かうのではないか。文末は「市民の運動機会の増加」となっており、言葉が整理されていないと感じる。スポーツ推進委員でなければならない、運動普及推進委員でなければならないというわけではなく、「市民の運動機会の増加」が健康増進に繋がるとよい。両者で協議・整理して進めてほしい。

【田中課長】

- ・スポーツと運動の使い方は、整理する。スポーツ推進委員と運動普及推進委員の役割の仕分けについては、両課で協議をしており、機能面で重複する部分もあるかもしれないが、基本的には役割と活動内容が違っており、統合は、現実的ではないのではないかと、という協議をしている。『スポーツが持つ「健康増進」や「体力維持」などの効果を活かせるように』という記述には、上越体操場の体操器具を活用し、上越オリジナルの運動プログラムを開発していきたいという考えを含んでいる。長い目で見て、上越体操場だけではなく、市内各所でも、プログラムを市民の方から取り組んでいただければ、それが市民全体の健康増進になるのではないかと考えている。

【佐久間指導員】

- ・現在、健康づくり推進課と連携し、健康づくり推進課で実施している成人病予防講座の中で、私が個別の運動プログラムを実践している。その内容は、部位別筋肉量・脂肪量・体内脂肪率・BMIを計測し、個別にその方に合ったプログラムを提供し、プログラムに基づいた運動指導を行っている。これは、今後、上越体操場でやりたいと思っている健康運動プログラムの前段階として行っている。上越体操場では、上越教育大学の直原副学長や健康づくり推進課の看護師、栄養士に協力いただき、ノルディックウォーキングと体幹運動を組み合わせると共に、体操場だからできる器具を使った上越市版健康運動プログラムを作りたいと考えている。事前に、生活習慣や食習慣、運動習慣を調査し、より良い運動プログラムを提案させていただきながら、体操場で体の変化を計測し、変化を「見える化」していくことで、継続して運動していく市民を増やしていきたいと考えている。最終的には、効果のあった運動プログラムを整理統合し、全市に普及していきたいと考えている。

【田中課長】

- ・今の取り組みが実現し、全市に展開する段階で、スポーツ推進委員だけでは足りないとすれば、運動普及推進委員との連携もありえるのではないかと考えている。

【春日委員】

- ・とてもいいお話だと思う。当協会ですロソをやっているが、どうしても女性の参加が多く男性の参加が少ない。今までの経験から、男性は、何か目的を持つことができれば、参加するということを感じた。今のように、目標とする数値や効果が目に見えて分かるようになれば、参加者も増えていくのではないかと思う。ぜひ進めてもらいたい。

【土田委員長】

- ・スポーツと運動の概念と使い分けについて議論があったが、厳密にいうと、スポーツという認識以前の、運動というところが、健康増進や体力維持に結びついていくと思う。「スポーツが持つ健康増進や体力維持などの効果」については、先ほどの話を聞くと、「運動が持つ」の方が適切であったのではないかと思う。参考にさせていただき、引き続き取り組みを進めていただきたい。

【滝本委員】

- ・佐久間指導員から説明のあった教室について、当クラブでは、4年前から同様の活動を行っている。医師から糖尿病を運動療法で適切に処置できる方を照会いただき、その方に指示書を出させていただいて、トレーニングをしているが、週1回程度だとなかなか成果が出にくい。なので、そういうところを運動普及推進委員やスポーツ推進委員と連携し、例えば、週2〜3回、継続的にやることで結果が出る。

【佐久間指導員】

- ・現時点では、上越市版健康運動プログラムは1クールを週2回、全12回の実施予定である。また、参加者に万歩計及び、ウォーキングカレンダーや食生活、生活習慣のチェックシートを配布し、家での生活の様子を申告していただきながら、進める予定である。上越体操場では、体内脂肪や体脂肪率、筋肉量だけでなく、筋力やバランス、俊敏性などの変化を毎回見ることができ、累積することのできる器具を購入するための予算化に向けて調整している。実現すれば、体力の見える化ができる、日本でも有数のトレーニング施設になると思う。

【土田委員長】

- ・ぜひ実現に向けて取り組んでいただきたい。

【亀山委員】

- ・施策2 競技スポーツの発展のジュニアトップアスリート育成強化指定競技について、卓球や水泳も全国レベルにあると思うが、この種目に絞られた理由は何か。その他の種目で活躍している団体や選手への支援はどのようになっているか。これから伸びつつある種目に対しては、支援されているのか。

【佐久間指導員】

- ・当初、市では小中高一貫の指導体制を整備することによって、競技力の向上を図ろうとし、委員会を設けていた。そこから派生して、今のスポーツ協会に当事業を移管している。種目選択の基準としては、小中高の一貫指導体制がとれそうで、成果が上がっている種目団体をスポーツ協会が推薦している。
- ・現在、地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業の対象となっている空手道を含む、

スキー以外の6種目団体が推薦された。その後、スキー発祥の地ということもあり、スキーに取り組む子ども達を支援することとなり、空手道が県の指定を受けたことから、現在の6団体となった。

- ・スキーを指定種目団体に加えるにあたっては、当時、高田スキー団が体育協会に加盟しており、体育協会では1種目につき2団体は登録できないことから、中郷ジュニアXCクラブと調整いただき、上越市スキー協議会という名前で新たに登録することで、指定種目に入った。
- ・具体的な支援としては、指定選手を各団体から挙げていただき、選手の育成事業に対する補助金をスポーツ協会を通して渡している。ここにある種目以外のスポーツ協会加盟団体の少年団やジュニアの種目についても、スポーツ協会を介した支援を行っている。本年度から、ジュニアトップアスリート育成強化委員会を種目別に開催しており、小中学校の先生や可能な範囲で高校の先生にも入っていただきながら、育成強化の検討を進めている。今年度は、バレーボールについて、選手の育成として、日本体育大学のコーチや選手を招聘し、指導者と中高生の選手を対象にした指導者クリニックと練習会を行った。約200名近い方から参加いただき、中学生は高校生から刺激をうけ、高校生は大学生から刺激を受ける、大変良いものとなった。

【齋藤委員】

- ・おかげさまで、上越市と新潟県から支援をいただき、また深くご理解をいただき、非常に運営も頑張っている。小中高一貫指導に取り組む中で、小中までの競技力の向上は、比較的順調にいつている。一方で、選手の負担額が大きくなっている。上を目指す選手は、年に数十回という遠征をしなければいけない。それは、狭い中での練習会や同じメンバーでの練習会ではなく、色々なトップ選手との交流の中から、競技力を向上する必要があるためである。限られた指導者でなく、先進的な指導者のところへ行って、練習会に参加する。そうすると、年に数十回は、かなりの選手の負担となる。
- ・小中高の一貫指導の中で、小中まではうまくいくが、拠点になる高校がなく、中高がなかなか進まない。
- ・寮がないため、他所から選手が来ることはできない。寮ができればよいとも思うが、なかなか難しい。そうすると、強い選手を育てていかないと、他所からは、選手を呼べない。中学を卒業する頃、早い子は小学校高学年から、他県からオファーがくる。全員が地元に残ってくれば一番良いが、上越市を出ざるを得ない環境にあり、高校の段階は、急に弱くなってしまふ。それぞれの団体では、指導の仕方がまだまだ足りない部分があると思う。競技力の向上は、一言でいうと、簡単そうだが、非常に難しいことである。

【田中課長】

- ・補助金の交付を通じて、できる限りの支援をしているつもりであるので、ご理解いただきたい。中学卒業後の方向として、例えば体操は、上越市内の高校と連携をしながら、県外から引っ越してきて練習する選手を受け入れているという話を聞く。しかし、できることとできないことがあり、種目によっても、方法は異なると思う。

【佐久間指導員】

- ・空手道も関根学園に指導に入り、北信越大会、全国大会に駒を進めるほど強化されている。体操競技も同様で、受け皿となる公立学校は、県教育委員会が指定した特色化選抜による入試を行っている公立高校が1種目につき1~2校あり、上越地区は、相撲・スキー・男子バレーボールしか指定されていない。その関係で、どうしても県内外の学校に流出してしまうアスリートが多くなっている。スポーツ協会と連携しながら高等学校の強化も進めていきたいと考える。

【土田委員長】

- ・施策2 競技スポーツの発展の目標の中で、「市民によるスポーツ活動の推進と競技力の向上」とあるが、高等学校のアスリートのパフォーマンスを上げ、成績向上を目指していくのか、あるいは、流出したとしても、指導者として戻れるようなサイクルを作っていくことも一つの方法である。全国大会に出場するアスリートへの奨励金制度などの取り組みを地道にやっていくことが、長期的に見ても良いのではないかと思う。
- ・高等学校の競技力を上げることには、限界がある。取り組みとして、特化していくことがあれば、向上していくこともあると思うが、なかなか難しい。将来的に戻ってくる選手が増えていけば、人的資源が非常に豊かになるし、不可能ではないと思う。色々な面でスポーツ活動の推進として、上越流を考えていってもよいと思う。

【齋藤委員】

- ・おっしゃるとおりで、なかなか難しい状況である。どこの大学に繋げていこうか、大学が終わったらこちらに帰ってくるような形で、就職先をこちらで考えたりした。何人かの優秀な選手が帰ってきて、指導に携わってくれている。よい形ができてきていると思う。

【土田委員長】

- ・将来的に形になるとよいですね。大学生のアスリートが、定期的に帰ってこられることもあってよいと思う。

【亀山委員】

- ・ラグビーワールドカップで活躍している稲垣選手が母校に芝生を寄付したように、戻って就職することと同じ気持ちで地元に貢献するのが大事だと思う。着実に、全国大会への出場率をあげていく中で、現在の取り組みを継続するのはよいことだと思う。しかし、小中高一貫の考え方から離れて、高校は種目が限定されることを踏まえ、小中のアスリート育成をバックアップし、そこから先は、改めて考えていくのでよいのではないかとも思う。選手の夢を次に繋げるための、下段階の小中育成強化をしていくように切り替えたかどうかと思う。

13 その他

【土田委員長】

- ・皆様の日々の活動の中でのご意見、ご質問などがありましたらお願いしたい。

【亀山委員】

- ・糸魚川市の相撲クラブで起きたいじめ問題で、協議の結果、中学校段階から、競技力向上のために親元を離れることは望ましくないという結論に至った。高校では入寮を認めているものの、中学校では、親と一緒に引っ越してきた場合のみ受け入れをしている状況である。他所の地域から入ってくることを考えると、糸魚川市の事例から学び、小中の選手育成の際は、慎重に進めるべきだと思う。

1 4 閉会

【高橋副委員長】

- ・活発なご意見をありがとうございました。
- ・施設の適正配置を進めるに当たり、今後、スポーツに取り組む環境が非常に大きく変化する。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、競技スポーツにおいても、全体が盛り上がる中で、追い風が吹いている。大会終了後に上越市のスポーツ振興をどのようにしていくか、皆さんからのご意見を踏まえ、考えていきたいと思う。少なくとも、現在の支援が次年度以降も、継続されていくことが必要だと思っている。
- ・今後ともご意見をいただければ幸いです。本日は、大変ありがとうございました。

1 5 問合せ先

教育委員会スポーツ推進課企画推進係

TEL : 025-545-9246 (内線 616-1333)

E-mail : sports-k@city.joetsu.lg.jp